

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 R8年2月1日			
放課後等デイサービス歩					
チェック項目		はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	2	縦長のフロアになるため狭く感じますが、1日の定員に対し、東京都の規定による広さを確保しています。窮屈に感じないよう外活動も多く取り入れています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	1	1日平均して、常勤・パート合わせて計6～7名での体制で組んでいます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	3	現在、バリアフリー化ははされていませんが、必要に応じて対応していきたいと思います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		スケジュール表やホワイトボードを活用し、子どもが見通しを持って行動しやすいよう配慮しています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1	個別に使えるスペースはありますが、人数や活動内容によっては十分に確保できない時間帯が発生してしまうことが課題です。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	3	毎始業時や月3回の全体ミーティング・全体研修の中で、より良くしていくための話し合いや、研修会を行っています。参加できなかった職員への情報共有がもう少し手厚くしたいと感じています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	回収後は全職員で内容を共有し、良かった点・改善点を話し合い改善に繋げています。業務改善へのつなげ方が個人レベルになっており、事業所全体で改善できるようにしたいと思えます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		全体会議だけでなく、日々の話し合いの場で立場や経験に関わらず声を出しやすい体制にしています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	7	適切な形態かつ、有効性のある形であれば、取り入れるつもりですが、現在は予定していません。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		月1回の全体ミーティングや都主催の研修、関係機関の研修受講の機会を設けています。今後もアセスメントのあり方や事例検討などを通して、実際の支援に役立つ内容を取り組みたいと思えます。
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	1	HPにて公表しております。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		面談は必ず児童発達支援管理責任者を含むスタッフで対応し作成しています。必要に応じて1～最長でも6ヶ月の期間で見直しを行なっています。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	1	日々の支援記録や職員間の申し送りを通じて、子どもの変化や課題を継続的に共有し、計画の見直しに活かしています。支援方針の共有はあるものの、個々の職員の理解度や解釈にばらつきがあり、一貫性のある支援につながらないことが課題と感じています。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	2	支援開始前のミーティングで、活動内容や子どもの目標に沿った対応を確認してから活動を開始しています。業務（送迎等）によって、計画の具体的な内容が共有されないまま支援に入ることが課題と感じます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		療育機関による評価をもとに、発達状況と適応実態を把握しアセスメントを行なっています。引き続き全スタッフがアセスメント技術向上を図れるよう研修を行っています。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	2	地域行事への参加や、外出活動の中で地域との関わりをつくるなど、地域支援・地域連携の視点も取り入れた活動設計を行っています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	2	常勤・パート職員を問わず、全員で意見交換をしながら、季節や発達段階に合わせた活動内容を立案、計画を立てられるようにしたいと思えます。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		曜日や児童に偏りが無いよう月ごとに、新しい集団ゲームの提供を行なっています。また特性や年齢に応じておこない、一律にプログラムを取り入れておりません。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		特性や年齢、興味に合わせた活動を提供し、小集団での遊びと個別遊びを取り入れていきます。面談時には家庭の様子を聞き取りながら作成しています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		支援開始前に前回の状況や送迎時間、体調などの情報を共有し、活動内容やそれぞれの役割など確認しています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	3	活動日誌に記入し、全体で共有できるようにしています。終業後は必要に応じて、管理者へ申し送りをしてもらっています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		活動日誌、個別記録を複数の職員が記入しています。また定期的に個別記録の内容について情報共有しています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		最低でも1年に2回（6ヶ月毎）保護者の方と面談をおこない、必要に応じて個別支援計画を見直しています。モニタリングは全職員と意見交換しながら随時おこなっております。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	1	プログラムの中に、生活動作を含む自立支援的な活動や、創作・製作を楽しむ活動をバランスよく組み込んでいます。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10		子ども同士で話し合いの場を設けるなど、子ども主体で企画を考えることもあります。高学年にはリーダー力を付けてもらうため、違う意見をどうまとめるのかを一緒に考えてあげることもあります。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		必ず児童発達支援管理責任者を含め、複数で参加するようにしています。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	3	昨年度に続き医療的ケアの必要な児童は受け入れていません。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10		連絡帳、送迎時、電話、FAX、メールを活用した連絡方法を取り、必要な連絡はすべておこなっています。また必要に応じて学校と直接やり取りをしています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	4	保護者からは就学前のアセスメント表などをご提供いただくこともあります。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	3	保護者の要望に合わせて情報提供をするつもりです。また卒業に向けての進路相談や就労相談もおこなっております。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	3	施設公開や説明会、研修会には可能な限り参加をし、担当者の方との連携に努めながら、助言をいただくこともあります。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	3	計画的に行うことはありませんが、近隣の公園などでの自然な交流の場が生まれる事はあります。他事業所との合同イベントとして、ダンス教室やスポーツイベントを定期的に行っています。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	2	定期的な児童部会や放デイ連絡会に限らず、必要な場合は個別に関係機関などと連携に努めています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		毎日の活動の様子を連絡帳やメールを活用、送迎の際にもお話しをして、その日のうちに保護者に伝えております。状況や課題についても逐一報告しております。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	2	ペアレント・トレーニングという形ではおこなっておりませんが、子どもとの関わり方や環境整備について相談に乗りながら、支援をさせていただいております。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		利用契約時に、運営規程や重要事項等は書面でお渡しし、面談時に口頭でもご説明するようにしております。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		面談時等に課題に感じる点や、計画に含めたいこと、ご本人が挑戦したいことがあるかを聞き取っています。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		支援計画は専門用語を避けながら、保護者が理解しやすいよう丁寧に書き表すことを心がけ、対面で1つ1つ説明しています。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		利用児童だけではなく兄弟・姉妹の関係についても適宜相談に応じております。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7	2	年1回の保護者会を開催するほか、親子参加型のイベントも企画しています。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		支援や活動の内容についての疑問点や不明点、または児童の変化に対しては、すべて責任者が迅速かつ即時的に対応しております。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	1	月1回、お便りを発行をしています。また、ホームページにおいてもブログを随時更新しております。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	1	全スタッフに対して日頃より個人情報の取り扱いについて注意喚起をしています。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		文書の残る形で説明やお知らせをするようにしています。内容によっては、行き違いを防ぐため、出来る限り対面でお話しさせていただき、記録をとるようにしています。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	8	現在、招待するようなイベントを組んでおりません。今後は、前向きに検討していこうと思っています。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		冊子またはプリントにして契約時の配布と施設内に閲覧できるようにしています。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		年に2～3回の避難訓練をしています。近隣公園や避難場所への避難誘導と説明をし、訓練ごとにスタッフでの反省会を行っています。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		保護者様からの報告があった際には、職員間での共有を行っています。アレルギーや発作の既往がある児童への対応を職員が不安に感じ、緊急時の対応に自信を持ってない職員がいることは課題に感じています。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	2	原則として医師の診断に基づいた保護者からの申し出により対応しております。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		定期的に事故防止、感染症対応、災害時避難、送迎中の安全管理等に関する研修・訓練を実施し、実際の支援に活かせるようにしています。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		避難訓練や安全教育（交通ルール、感染症予防等）の様子は、連絡帳やお便りなどを通じて家庭へ伝え、家庭内でも話題にもらえるようにしています。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		いつでも記入できるよう用紙を設置しファイルしており、定期的にその中から事例を取り上げて、ミーティングなどで全体化しています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		定期的に虐待についての討議の機会を設けながら、外部で行われる虐待研修には多くの職員が参加できるようにしています。また支援時には様々な観点から複数で対応しています。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	2	身体拘束が必要な子がおりません。どのような形であれ身体拘束、隔離などの対応はいたしません。仮に必要性が生まれた場合は、必ず保護者・本人に説明しながら行うものいたします。	